

「松本千代栄研究——舞踊発想と音楽」

安村 清美 (鎌倉女子大学)・大鋸 桂子 (舞踊文化と教育研究会)・岩川 眞紀 (駿河台大学)

I. 研究目的

舞踊と音楽の連合は、舞踊文化が本来的に抱える命題の一つである。同様に、舞踊教育にとっても、この本質的な問題の解明は、対象者の発達特性を明らかにすることと共に、欠かすことのできない事柄であろう。

本研究は、我が国に於いて、舞踊教育を推進した研究・教育者であり、舞踊と音楽について『運動と音楽は、運動に伴う音楽、謂る伴奏としての音楽ではなく、運動という人間存在の生の形成を、常に流動的に、生命ある形式として覚醒させる起爆剤として働くものであり、身体運動の有機的統一と音運動の有機的統一が、互いにひきあい、互いにはじきあいつつ、より白熱の溶融の中に新しく「生」形式を生誕させる出会いの両者』¹⁾とみる松本が、舞踊発想と創作のための音楽として、どのような内容を選択し、その解釈を提出したのかを明らかにすることを目的とする。

II. 研究対象と研究方法

1. 研究対象

舞踊教育、作品のために創案・制作されたレコード・CDおよび解説

- (1) 楽曲数 レコード 178枚 410曲
CD 10枚 121曲
再収録を含む 計531曲
(オリジナル曲 266曲)

(2) 制作・発売年月と楽曲数

レコード	枚数	曲数	枚数	曲数	CD	枚数	曲数	
S.28.8	7	14	35.7	11	23	H.2	9	113
29.4	9	18	36.7	6	12	5	1	8
30.7	9	18	37.7	26	52			
31.6	9	18	42.7	6	20			
32.7	9	18	44.	2	4			
33.8	8	16	45.8	12	24			
34.6	7	14	48.	3	6			
34.7	20	40	52.7	26	97			
			56.8	8	16			

2. 研究方法

- (1) 上記1, レコード・CDのタイトルおよび解説の分析 (楽曲の解釈を含む)
(2) 創案者・制作者・作曲家に対するインタビュー

III. 研究結果と考察

1. 舞踊発想—作曲—制作の手続き

(1) 創案者

研究対象曲は、いずれも松本によって創案、発想が提出されている。創案者松本は、舞踊のための創案、発想を生むための本研究に関わる資質および業績として次のような履歴を有している。

まず、幼少より、仕舞²⁾・箏曲を習い日本的な表現に接し、昭和12年東京女子高等師範学校体育科に進学、体育・音楽・教育を修め、舞踊を戸倉ハル、音楽を宅孝二に師事する。「第3回体育科音楽試演会」(筆註:卒業公演にあたる)では、選ばれてピアノ独奏、モーツァルト協奏曲変ホ長調第一楽章を演奏³⁾した。

昭和16年4月～18年3月、21年4月～27年3月の奈良女子高等師範学校附属小学校教諭時代は、ピアノの即興伴奏による創作ダンス指導を行い、子供の動きと音楽・リズム・発想との関連を研究的、経験的に蓄積していった。この間、昭和18年4月には舞踊研究のために東京女高師研究科にもどっている。

東京教育大学(昭和27年4月～)着任直後より、積極的に舞踊発想を創案、レコード化し、また、体操競技会において当時の学生である小野清子・曾我部和子両選手の床運動で、ピアノ即興伴奏を行うなど、自身の演奏も手がけている。昭和32年の著書「舞踊美の探究」⁴⁾では、『表現と効果』『発達と指導』の章を設け、音楽・リズム・即興伴奏について論じ、表現の題材については、分類基準と調査結果を報告し実証性を持って発達をみている。

お茶の水女子大学(昭和46年4月～)では、教育学科表現体育学専攻(後の舞踊教育学科)を創設、大学教育の場に舞踊教育と研究を位置づけた。この間の著書「表現ダンス学習指導全書」⁵⁾(昭和55年)では、創作の体系化を論じ、「表現の世界」⁶⁾(昭和60年)では、運動課題・イメージ課題双方からの舞踊表現への接近を説いている。同年の最終講義「ひと流れの動きに生命あり——と」において、松本が舞踊の核心とみなした、動きと音楽の融合の中に生まれる最小限のまとまりに表現の本質をみていることと、課題化の共通性をここにみる事ができる。この期の、舞踊作品創案として、In Spring Glory『栄光の春の日に』(昭和50年、

楽曲も同名) などがあり, エリザベス女王陛下に献呈された。

また, 内外におけるレクチャー・デモンストレーション⁹⁾においても舞踊と音楽に関する数々の発表をしている。例えば昭和48年イランにおける国際女子体育会議では, 自身の創案による『情調・抽象・所作』の楽曲をもってDance as a Guide for Creative Abilityを発表, 昭和54年全日本女子体育実技研究発表会では, 松本の企画・司会により「舞踊音楽」と題し, 宅孝二のピアノ演奏と舞踊家4名によるコラボレーションを行うなど, 創作法と作品化の構想と事例を提出している。

(2) 創案と作曲家

舞踊発想に基づく創案を, 楽曲として具体化するためには, これを理解し作曲する作曲者が大きな役割を持つ。

昭和28年から平成5年までの間, 作曲に携わった作曲家は28名を数え(表1), 当初10年間には, 平井康三郎, 富田 勲, 宅 孝二, 草川 啓の作品が多い。その後, 越部信義, 安達元彦, 三木 稔, 小森昭宏, 佐藤允彦, 久石 譲なども多く仕事をしている。作曲家の越部信義氏は, インタビューに答え⁸⁾, 『舞踊発想(題名と展開予想)がはっきりと示された作曲依頼に対し, 制約の範囲内で, 内容や強調点, 対象, 雰囲気など依頼に忠実に相応しいものをつくろうと心掛けて』おり,

JASRAC⁹⁾60年の作曲者部門・特別賞受賞の思い出の曲に「おもちゃのチャチャチャ」などとならんで, 特に「松本千代栄ダンスシリーズ」を挙げている。数多い作曲の中で, “ダンス”を核とした創案は, 作曲家にとっても, その内包するイメージ, 音楽性(リズム, 反復性など)に刺激と共感を呼んだものと考えられる。

創案者の多岐に亘る発想を受けとめる, 多くの作曲家の個性の存在が, オリジナル曲266曲の幅をさらにひろげるものとなったと考えられる。

(3) 制作過程

レコード・CDの制作過程¹⁰⁾は, 次のようになされる。

創案者は, 楽曲のための創案, 発想を制作者の理解・協力のもと, 作曲家に提示し, これを受けて, 作曲の試作がなされる。試作の視聴後, 必要に応じての試技で動きや発想の理解を深め, 吹き込み—完成という手順が踏まれ, 創案者は, この楽曲を再認するかたちで解説を執筆, 以上をもって制作完成となる。(制作者とは, レコード製作を担当する企業側の責任者)

企画—制作—完成のどの手順も, 創案—作曲—制作者の密なコミュニケーションの上に, 動きの発想と音楽の関連性に着目した丁寧な楽曲づくりが成されているとみることができる。

表1) 作曲者一覧—年代別楽曲数

	S28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	42	44	45	48	52	56	H2	5	
平井 康三郎	5	4	5	3	3	1	12(11)	2		8(7)					4(4)		4(4)		51(26)
服部 逸郎	2																		2
高田 三郎	7	4	4	2	1	1	3(3)			2(2)									24(5)
富田 勲		4	4	2	4	3	9(3)	6	3	10(8)			8	1	20(20)		20(20)		94(51)
池 譲		5	5	3	2		4(4)			4(2)					4(4)		4(4)		31(13)
宅 孝二				5	5	4	13(5)	5	3	12(10)					10(10)		10(10)		67(35)
草川 啓				2	3	3	8(3)	6	4	8(7)	3				10(10)		10(10)		57(30)
服部 公一						1	3(1)	4		4(2)					2(2)		2(2)		16(7)
堀江 貞一						2	1(1)			1(1)									4(2)
越部 信義										1	5	1	6		14(9)	5	19(19)	8	59(28)
鈴木 創						1	1(1)			1									3(1)
岩河 三郎									2	1									3
鈴木 林蔵		1																	1
海沼 実				1															1
横山 青児											7	1	6		12(12)		12(12)		38(24)
伊藤 辰雄											1				1(1)		1(1)		3(2)
早川 正昭										2					2(2)		2(2)		6(4)
三木 稔										2				2	5(4)		5(5)		14(9)
小森 昭宏													4		4(1)		4(4)		12(5)
安達 元彦														3	3(3)		3(3)		9(6)
玉木 宏樹															2	3	5(5)		10(5)
佐藤 允彦															1	2	3(3)		6(3)
山本 直純												1			1		1(1)		3(1)
坪能 克裕															2		2(2)		4(2)
久石 譲																3	3(3)		6(3)
冬木 透															2		2(2)		4(2)
小久保 隆															1		1(1)		2(1)
小林 秀雄												1							1
	14	18	18	18	18	16	54	23	12	52	20	4	24	6	97	16	113	8	531(265)

()は再収録曲数を示す

表2) 創作曲のタイトル分類一覧

レコード・178枚(410曲)・CD10枚(121曲) 計531曲 オリジナル曲(266曲) 再収録曲(141曲)

	動物・植物	自然	自然現象	科学物質	遊び・スポーツ	生活事象	人と生活
幼稚園	なんでもしょう 動物まつり いばったライオン				しゃぼん玉 幼稚園のお庭		おてつだい クリスマス
幼稚園・小学校(低)	動物と舞踏 てんとう虫とまきのこ つばし話 影絵 みつばちの旅行 かばちの花 動物ごっこ 小鳥ごっこ 怪や騒になって お話しあそび なぞなぞあそび	小川のできごと おひさまにこにこ		花火 模型つくり	ねんど細工 のりものごっこ 人形ごっこ はったり やまびこ じょうずにできますか 買物ごっこ おもちゃやさん スキップ遊び 模型つくり		楽しい日曜日 まつりばやし たのしいえんそく わたしのおかあさん
小学校(低)	動物園(動物園めぐり) 花と蝶 おれんじかえる(蝶) *どうぶつごっこ *はちやちようちよびごなつて ちようの一ひ *こどり(小鳥)ごっこ *かわい虫たち *かかげえ *花と虫たち 動物の一ひ *ステパ・ステパ・ステパ *お話しつくり 動物のカーニバル お池の及だち 遠の動物たち 小鳥のくらし	お山のどんぐり	コンドールタワー のりもの博覧会		*のりものごっこ *買物ごっこ *あそびましよう *スキップ遊び *じょうずにできますか *おもちゃやさん 仲よしあそび きしゃ(汽車)ごっこ けんぱの歌 仲よし人組 のりものごっこ いしものできた おもちゃやさん		*おてつだい *たのしい日曜日 *まつりばやし *おてつだしましよう *おてつだい えにっき
小学校(中)	いたずらごまつね *鳥たちの生活 ありのくみ *とんぼの旅行 *花と虫たち お話しつくり *ちようの一ひ *かかげえ	滝の生活 お話しあそび 雪ふり 雪ふり 大雨の町	汽車 *花火 *模型つくり オートバイ工場 ロボット製作 時計屋さん		夏のたのしみ 輪遊び 二人で組んで *汽車ごっこ		遠足 私達の村や町 *野球隊 おまつり 滝のしごと お祭りコース キャッチャーマチ わたしの観察 まつり
中・小学校		雪の結晶 虹の物語 溜(含中学)	ネオンサイン 機械(含中学)		二人の力		生活のスケッチ 建築作業 探検隊 子供の四季(その一番) 遠足
小学校(高)	花園 造園 こん虫の世界 鳥たちの午法	波 四季のスケッチ 自然の威力 楽器たより 水車 変化する自然 山びこ 海底火山 冬から春へ *写生	機械 *機械 製作・結晶		かけふみ 子供利ピック		おもたち とり入れ 守備固 *建築作業 六年の思い出(一) 六年間の思い出 六年の思い出(二) 大昔の生活 ダム建設 流し作業 *みのり 生命
中学校	*造園 花の一生 花	自然風物詩 *四季のスケッチ 雲三題 水の点描 *春の幻想 *大雨の町 *冬から春へ	*ネオンサイン				*働く人 *とり入れ みのり 労働のリズム *日本の姿 *つたこえ
中学校・高等学校	*花 四季の花	春の幻想(含一般) 光と影 秋の造形 *自然風物詩 四季のスケッチ 舞踏詩自然 流れ *雲三題 *水の点描 *大雨の町 *冬から春へ *うねり *栄光の春の日に	*ネオンサイン				私のデザイン いけ花 日本の姿 つたこえ 若きついで 思い出のアルバム *働く人々 *労働のリズム *(習作)祭り
高校		流れ 空と土 うねり					働く人
中学校・高等学校・大学・一般	全身の動き 一仔猫のクオームアップー	俵一掃一回 一透明な空の下ー 捻一回一見 一美しい流れー 運動一変化一連続 一風紋一 兼合と分枝 一生きてる自然ー 栄光の春の日に					(習作)祭り

要・物語	思想・感情・抽象		その他	
	思想・感情	感情・抽象	エピソード	シキング・ゲーム シキング・ゲーム・フォークダンス・行進曲等
				シキング・ゲーム
				仲よし会 仲よしこよし お母さんとわがびなで 世界にひびけくらの足音(行進曲)(含小・中学年) れぞれ動物たちのお祭りだ(販促曲)(含小・中学年)
不思議な国 魔法のメロ				狩に行きましよう たんじょうかい
ひっくり箱 空のお話 まほうのされ お話づくり ハチスカフ おもしろいお話 探検	秋の幻想			FD:ロンドンブリッジ 狐とかちょう 仲よし行進 ゆかたのすかたで
動く画面 夢の旅行				さくら踊り
* 動く画面 * 不思議な国 目かの歌 * 夢の旅行	すきな歌で すてきなおんがくで(親は誰の子)	動きのデザイン リズムと和ディ 二つの力 動きのくふう		
人形の幻想 * 海底の幻想	* 舞踊詩 * 私たちの詩集 友情(若い世代)一 EH 友情(1-5) 友情(若い世代)二 EH 友情(1-5) 途程 歌とともに * 絵画の印象(1-5) * 人間の感情(1-5) 対話 * 音楽に寄せて	律動 音楽によせて 動きの造形 ハラディ * 動きの抽象 現代のリズム1 現代のリズム2		踊舞
海底の幻想	人間の生涯(上) 人間の生涯(下) 私達の詩集 現代の表情(A) 現代の表情(B) 絵画の印象(一) 絵画の印象(1-5) 絵画の印象(二) 絵画の印象(1-5) 舞踊詩 現代感覚 音楽によせて * 歌とともに * 友情 友情(1-5) 人間の感情(1) 人間の感情(1-5) 人間の感情(2) 人間の感情(1-5) * 対話 * 情調・抽象・所作 * (習作)室 * (習作)幻想曲「静」	動きのコーラス 動きの抽象 動きの群像 動きの世界 一つの世界 動きの交奏曲 * 動きのデザイン 直線と円のコンポジション * 現代のリズム1 * 現代のリズム2 * 出会い * 踊り		郷土のかおり お国自慢 美容体操(含一般) 調和の美(含小・高学年) 輝かき未来へのはばたき(含小・高学年)
	やわらかい動き(柔軟感) はりつめた動き(緊張感) はすむ動き(弾力感) ねばる動き(粘性) しずかな動き(静謐感) 力のあつた動き(力動感) のびのびした動き(遠心性) 鋭い動き(尖鋭感) 重厚な動きのフレーズ 躍動する動きのフレーズ 流麗な動きのフレーズ 厳格な動きのフレーズ 情調・抽象・所作 (習作)室 走一歩一歩一ハニッカー 個一群の展開 一挑戦一 (習作)幻想曲「静」 7MOTIVES 1. Sharp Motive(鋭い) 7MOTIVES 2. Lonely Motive(寂しい) 7MOTIVES 3. Natural Motive(さびしい) 7MOTIVES 4. Happy Motive(楽しい) 7MOTIVES 5. Flowing Motive(流れるような) 7MOTIVES 6. Solemn Motive(厳かな) 7MOTIVES 7. Dynamic Motive(躍動的な) Episode 嵐く羽を (イメージと動きに関わるエピソード)	出会い 舞と踊り	個人の動きの変形 集団の動きの変形 習作(1) 習作(2) 打楽器によるダイナミクス(力性と発想) 劇性ともままり(リズムをもつ動きのはこび) 反復性ともままり(ABA形式) ハモニーともままり(二群のためのカン) みんなでおどろろ1, 2, 3 マーチング・アニメーション みんなでおどろろ4, 5, 6 ヲジキング・スターグスター みんなでおどろろ7, 8, 9 一踊りのキョウカをひろくー みんなでおどろろA, B, C ーダンス・ファンタジー 全身と部分の動き 一姿をつくらうー 部分の動き 一0ホ+組立てー ム・フラットデザイン 一鏡のコンパルトー 群のリズム 一空間の呼吸一 個と群 一原始群一	
				監修・解説 フォークダンス 約50曲 (必修・参考フォークダンス)

2. 創案の内容

(1) 創案曲のタイトル分類

創案曲のタイトルを自然、生活事象、思想・感情・抽象、その他の分類にしたがって発達別に分類、考察する。(表2、表3)

幼・小(低)は、動物・植物、遊び・スポーツ、人と生活の順に頻度が高く、模倣的な動きを曲の感じと重ね合わせて表現できるよう企図されていると考えられる。例えば、「てんとう虫ときのこ」¹¹⁾では、『…子供の興味ある動物をとらえてお話をすすめましょう。…子供たちの興味を良く知ることがたいせつです。』¹²⁾と、発達を考慮した題材選択の視点を挙げ、さらに『小さい子どもたちは、くりかえしを好みます。…この音楽は、そのような子供達のために、好きなお話をつくって、自由につかえるようになっていきます。』¹³⁾と、音楽の構造特性と子供の動きの傾向との関連についてもふれている。

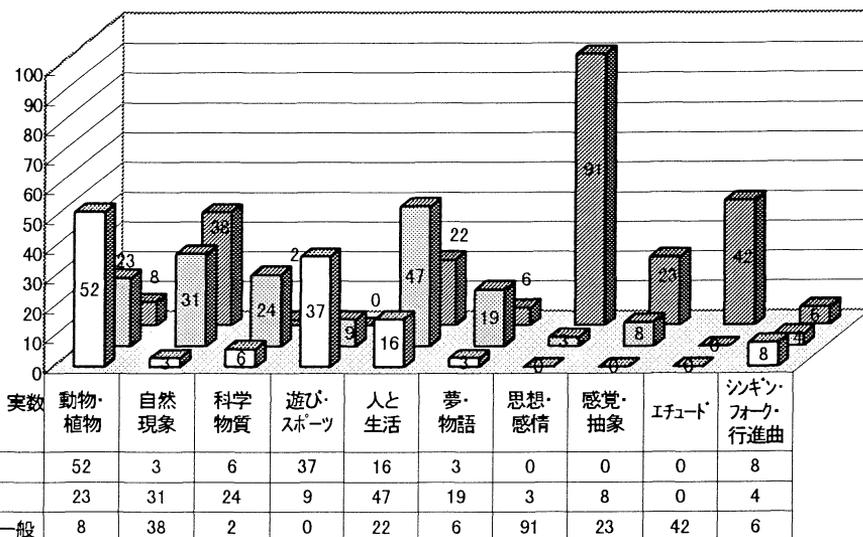
小(中・高)は、人と生活、自然現象、科学物質、動物・植物の順で頻度が高く、夢・物語、遊び・スポーツの領域にも拡がり、生活経験や、学習内容の拡がり・深まりと対応して、題材選択の幅も拡大するものと考えられる。例えば、「生活のスケッチ」¹⁴⁾では、『…子供達には、日常の経験をとりあげて表現させ…日常の生活で誰でも経験するような題材をとらえて、グループ活動を上手に…』¹⁵⁾と指示し、「自然の威力」¹⁶⁾では、『音楽を聴かせて、児童が日常経験している、自然の威力を思い浮かべさせ…表し方は、たんに、外形の描写だけに止まらず、どんな気持ちでそれを表したらよいか感情をしっかりとらえ…』¹⁷⁾と、経験や

自然現象を、描写と感情をかけあわせた動きの開発の方向も示唆している。

中・高・一般では、思想・感情の頻度が高まり、例えば「私たちの詩集」¹⁸⁾では、『表現は、心の流露で無くてはならない。青年期の激しい感情の波を、このような形で、はきださせ、触れ合いを作って…』¹⁹⁾と、詩、音楽、動きの相互作用の中から導き出される感情の発露としてのダンスを提示している。また、次に多い自然現象でも、「水の点描」²⁰⁾に代表されるように、『描写的で、しかも美しいこの音楽』²¹⁾と、描写(雨だれ、波紋、水しぶき)的動きの表現から、その動きが内包する質的特性—『静かなのんびりした(夜明け、回想)、時に激しく、時にやわらかく(嵐、反抗)』²²⁾—から引き出す内面性へも言及している。つまり、この期の発達特性として、描写、写実的表現を経過して、感情、感覚的表現が実現されると考えられる。

さらに、「舞踊創作のためのエチュード」²³⁾シリーズでは、動きのフィーリング・パターン、フレーズ、デザイン、デッサン、コンポジションと、動きの質からまとまりのある表現へと、舞踊運動の特質を抽出し生かす内容から、作品へ結びつくような楽曲づくりが成されている。また、「ダンス学習法」²⁴⁾シリーズでは、課題学習へとつながる楽曲を提出し、イメージと動きの双方向性をもつ、舞踊創案であることも、タイトル分類からうかがえる。いずれも、それぞれの時期の、創案者による舞踊構造や指導法研究の成果を還元したものであるということがいえよう。つまり、実証性を踏まえた創案をもって、レコード、CDの制作がなされたといえよう。

表3) 題材領域別・発達別グラフ



総曲数 531曲

(2) 創案解説の形式

創案解説の形式として資料1、解説凡例A、B、Cにみるように、A—楽譜と記述、B—記述、C—写真と記述の三種に分類することができる。

Aでは、楽譜の中に“のっそりと”“ピョンピョンピョン”などのように、動きの質やイメージが書き込まれ、短い中に特徴を持ち変化のある、創案者の要求に沿った写実的な作曲がなされていることがわかる。また、“指導のためのヒント”には、四つのパートごとに動物の例を挙げると共に『…音楽のきれめに短い話をいれて、一連の物語になるように…』²⁵⁾と解説し、一つのイメージに固定されることなく、子供たちが音楽から受け取る感じによって動きをひろげることが可能であることを示唆している。

Bには、“表現の手引き—指導のためのヒント”²⁶⁾“動きのヒント—はこびのヒント”²⁷⁾ある

いは、舞踊の構造と要素²⁸⁾、課題²⁹⁾の種類が表記されているものが分類される。音楽による感性的発動から、動き、イメージ、まとまり、はこびを関連させながらの言語の解説—ダンスへの接近が試みられている。

Cは、他の芸術領域（絵画、彫刻、生花など）の写真や、実際に踊られた写真を記述³⁰⁾と共に掲げている。言語での解説にプラスして、聴覚刺激である音楽と共に、視覚から受けるインスピレーションをも働かせ、舞踊のより総合的な表現に接近するよう考えられているといえよう。さらに、凡例Cの解説にみるように和楽器（琴、鼓、琵琶、尺八、篠笛、拍子木など）の使用、早い時期のモーグ・シンセサイザーの使用もみられ、洋楽器とは異なるリズムを感受し生かす機会をもうけている。

資料1)

(解説凡例A)

動物園 平井康三郎 作曲

凡例のこのパートは、「ファゴット、チェロ、バス、ピアノの低温でゆっくりと…」と解説され、他のパートも例えば「へび—低音部の半音階的進行は、によりよると這い出した…、トリルは火のように赤い舌を…、はつかねずみ—クラリネット、ピオラ、ピアノが奏する速い十六分音符の動きは…、ピチカー

トは…」のように楽曲とイメージ、動きの関連が示されている。
(昭和28年)

なお、凡例Aには、AK281～AK561（昭和28年～昭和32年）までが、含まれる。

(解説凡例B)

高学年向 2	動きのヒント	はこびのヒント
大昔の生活 (2'33") 創案／松本千代栄 水谷 光 作曲／宅 孝二	A. 密林をかきわけるようにしてゆっくり歩いては、あやしい音に耳をかたむけては止る。あちこち探し求めるように低い姿勢であるいは急に獲物を求めるようにとぶ、そして走る。獲物が倒れる。方々から植などを上にかかけ、小躍りするように走る。獲物といとめた人とのにらみあい。 おおいかかるようにとんだり、追われて走っては静かに伏す。足音、手拍子、かけ声をかけて、とび、走る。 B. 天を仰ぐようにして腕をあげ、ゆっくりと地にふす。近くの人々と互いに手をあわせては天をおかむように、腕をのぼしては伏すのくりかえし。	グループで大昔の狩猟の生活を想像し表現してみましょう。 A. うっそうとした密林、獲物をさがし求めて。あつ、獲物がノ叫びを聞いて、方々から人々が集まる。喜びはやがて酋長の輪となり、獲物をいとめたときの再現、大きな怪鳥の再現、人々のはやしなど、祭りは興奮した輪踊りとなる。 「足音、手拍子、かけ声…」 B. 1日の収穫のよこびは明日の豊穡と神々への感謝の踊りへ変っていく。

(昭和52年)

大昔の生活

1. 表現の手引

- 古い時代舞をして酋長の生活を想像して。
 - いろいろな動物をばこんで人々が、森の広場にあつまってくる。
 - もうけられた祭壇の前で酋長の友が祭のはじまりを告げる。
 - 酋長の輪の中で、鹿の動物の皮をかぶった1人と、それを射止めた1人がその時のようすを、リズムカルに再現する。はね上ったりにげまわったりおいかけたり。
 - 次は大きな鳥馬のようすを再現する。まわりの人々のはやしや声援の1で。
 - やがて祭は、興奮した人々の輪踊り「尾音、手拍子、かけ声、……と共に高まって行く。
- 1 日の収獲を得たよるこびは、やがてあすの豊作をねがう神々の感謝とよろこびの踊りにかわる。集ったすべての人々の心は一つに溶けあって賑やかに、しかしおごそかに。素朴な人々のいのちの表現そのままに。

2. 指導のためのヒント

- 社会科の学習に関連し、農業や狩猟をして、生きていた素朴な人間のくらし、のいろいろな場面をとり上げて表現させる。単に、外形的な表現にとどまらず、素朴な生活の、行事の中にこめられた人々の喜びや悲しみや祈り、をこめて表現できるようにする。表現を通して、人間の生活のいろいろな関心をふかめるようにする。
- グループでまとめるか、またはグループは部分に分組して、学級全体で1つの劇風にもめてよい。

高学年の学習は、題材は教師が資料をしめて、グループにえらばせたり、すんではグループで自由にきめて行ったり。また1つの課題で、まとめ方をきめて行く。

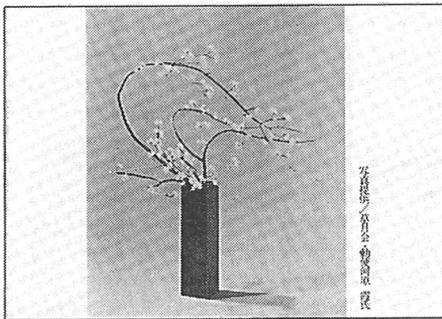
- 第1段階の指導では、計画を知り、役割をきめ、内容や構想をきめる。
 第2段階では、きめた内容にしたがって良い動きを出しあつて、伴奏をきめる。また場のつかい方もよくふりかへてグループの友だちと助けあつて作る。また他のグループともなおしあつたりする。
 第3段階では、発表会を行い、係をきめて発表鑑賞する。また表わし方やまとめ方について良い意見をのべあう。

(昭和36年)

<解説凡例C>

III. 情調・抽象・所作 <フィーリング・パターン=形態>

3'49"



動きのもつ基本的な感情的性質——動きの感情価をつかませる練習。ここでは、曲線の動きがもつ情調的性質、直線の動きがもつ非日常的性質、それに対して、平常的な動作を舞踏的にかえる日常的性質の三つの性質を選び出した。

指導のためのヒント

- 小グループをつくり、曲線的(直線的・所作的)な動きをそれぞれ感じあひながら行わせる。
- 一つの動きをきめて、群による変化を試みる。
- 1群が主となる動きをくりかえし、他群が、それに調和する動きを次々と試みるなど、デッサンをする。
- 主題をきめて行く。
(例)「いけ花」(曲・直)、「作業」(所作)
- 個人あるいは2人で、音楽によって、曲直のデッサン、所作のデッサンを行う。
- みつけた動きを反復しながら、どの程度原型をとどめながら変えていけるか、いろいろなバリエーションを試みる。

課題4 運動—変化—連続 ~風紋~ 佐藤允彦作曲

<運動—変化—連続>は、すでにいままでの練習の中にもふくまれていました。ここでは特に、大きなうねりの中に、小さいうねりがいくつも含まれて、全体として大きい流れをつくる舞踏の構造の性質を強調し、感じとれるように設定しています。(動きの展開の練習)

- ①一連の動きが呼吸するように自由につづける。
- ②1人の動きに唱和させて、群のユニゾンに反復する。
- ③集合—分散をいかし、クレッシェンドの反復。
- ④課題1. 2. 3の動きをいかし、旋回の軌跡を美しくつくる。
- ⑤音の深さとし性をいかし、イメージをもって連続して踊る。
(例—宇宙、中央アジア、流砂、原始の顔、心像、等)

(5'18")

IV 群の要素

EE3049

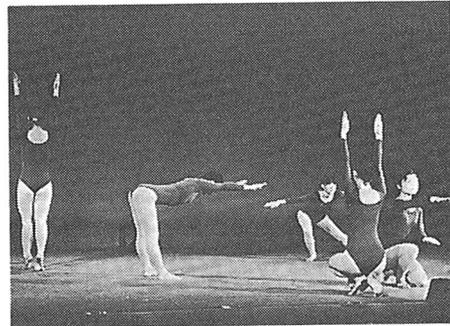
課題1 群のリズム ~空間の呼応~ 久石 譲作曲

グループのメンバーが空間のどのポジションをしめるかによって人間と空間のつくりだす表現性はかわります。空間に描くリズムを感じて、メンバーの凝集度をかえてみましょう。先ず2人の練習から。

- ①2人のかたまり、前・後向、並列、高低、遠近をかえて、2人でつくる表現の相互関係を感じましょう。
- ②空間の中の距離関係——どこまで離れた関係は密に保てるか。序破急のリズムで追いかけてみましょう。
- ③2人でつくる空間の経路。(軌跡)
- ④動く1人と動かさずサポートする1人との対応。
- ⑤2人でイメージをきめて。
(例—鳴動、序破急、遠近感、点描)

(4'28")

(昭和56年)



7. 身体の面、形などのもつ感情的性質をみいだすように、条件をかえて試み、かつ、互いに観て確かめあわせる。
8. 所作では、特に、どこを強調し、どこを捨てるか、原型のリズムをどう強化するかに注意させる。

注意

十三絃・十七絃箏のグリッサンドと巡礼鈴・風鈴の音によって導入され、「情調」の部分は、箏のリズムにのりソプラノのヴォカリーゼで奏される。フレーズの区切りに、みこ鈴・巡礼鈴・風鈴が奏される。「抽象」は、きはだ・びんざさら・銅鑼・祭太鼓のわく打ち、シンバルなどの鋭いアタックと、尺八の激しいソラネと能管の鋭いアタックにより緊迫感がまとめられている。「所作」は、桶胴・祭り太鼓・当り鉦・木魚・縮太鼓などと三絃・箏類の楽しいリズムにのり尺八・篠笛とソプラノのヴォカリーゼが軽やかなリズムを歌う。

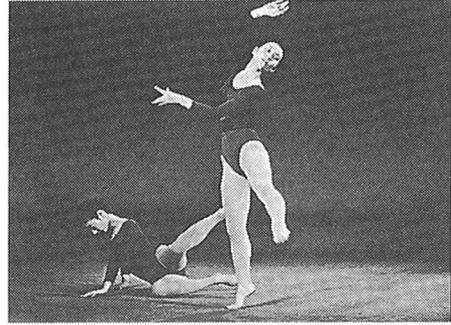
(昭和52年)



課題を与えようとするとき、「愛」という言葉として与えるとき、ある空間、ソロやデュエットとして条件を与えるとき、あるいは、物体のような装置や道具を与えるときなど、いろいろな角度から、創る意欲を刺激し、また、既にもつ枠組をのりこえられるような課題を与える必要がある。モーグ・シンセサイザーを用いたこの音楽は、その一つの課題の与え方となるだろう。

指導のためのヒント

1. 音楽をきいて、イメージをもたせる。
2. 自分たちの主題をもつ。
3. 主題に関連する性格をもった動きを出しあう。
4. 習作「〇〇」とし、それをつらぬく表現の中核をさめる。
5. 全体のはこび、群化のしかた、空間の処理などのあ



らましを、みとおせる限りみとおす。

6. 主題にふさわしい、新鮮な動きをみつける。
7. 音楽に同調し、音楽に対立し、踊りとしていきるようにつかひこなす。

注意

モーグ・シンセサイザー

これは電子楽器であって電子的に音を創り、従来の楽音だけでなく、あらゆる音を創り出す可能性をもっている。電子的に求める音のピッチを決定し、その波形を変化させいろいろな音色を合成することができる。モーグは、製作者の名である。他にアーブ・シンセサイザーなどが知られている。この機械の総称をミュージックシンセサイザーという。

(昭和52年)

(3) 創案の特性

①感情語と運動の分析

昭和28年から昭和37年までに創案、作曲、制作され、その後2~5回再収録された48曲³¹⁾の解説文の中から、感情と運動が関連して書かれている文節を抽出し、後に松本が提出した7 Motivesの基準³²⁾に従って分析した。このうち、発達別の特徴が顕著である14曲を抜粋し(表4)次に考察する。

発達別にみると、幼・小(低)では、楽しいMotive(以下Mv.)を基調に、躍動的なMv.流れるようなMv.へと拡がりをもつことが読み取れる。「ことりごっこ」「おてつだい」これらの持つ、細かさ、弾み、速さ、力強さに加えて、「動物園」「乗り物ごっこ」に見られるように、速度を落として重厚感を持つ厳かなMv.への挑戦もされている。

小(中・高)では、楽しいMv.流れるようなMv.鋭いMv.躍動的なMv.厳かなMv.寂しいMv.の順に頻度が高く、その差が少ない(学会発表資料参照)。「花火」「ネオンサイン」にみられるように、楽しいMv.躍動的なMv.の傾向をもつもの、「機械」「四季のスケッチ」のように、鋭いMv.と、楽しいMv.流れるようなMv.を対比的に取り

込んでいるもの、「自然の威力」のように、鋭いMv.と、寂しいMv.の対比で、動きのフォーム、エネルギーの両極がみられるものがある。さらに、「こんちゅうの世界」のように、一曲の中に、流れるようなMv.一鋭いMv., 楽しいMv.躍動的なMv.一寂しいMv.のような、対比と差を多く取り入れた変化のあるものもある。

中・高では、流れるようなMv.を基調に、楽しいMv.鋭いMv.躍動的なMv.厳かなMv.寂しいMv.と拡がりを見せ(学会発表資料参照)、その多くは鋭いMv.一流れるようなMv.一楽しいMv.([海底の幻想]), 寂しいMv.一流れるようなMv.一楽しいMv.([自然風物詩]), 鋭いMv.一厳かなMv.一流れるようなMv.([花]), 厳かなMv.一寂しいMv.一流れるようなMv.([私たちの詩集])のように、異なるMotiveの対比を際立たせた曲が多い。

このように、舞踊のための音楽として創案された楽曲解説には、初期の10年の間に既に、運動と情調の拡がりに、発達による明確な差異をもつ多方向性を見せ、後に、研究的に実証された7 Motivesは、経験的には、既にこの期に把握されていたと認められた。

表4) 感情語と運動の分析 (解説用語分類)

	タイトル	M/V	運動的な	鋭い	感かな	さりげない	寂しい	流れるような	楽しい
幼稚園・小学校(低学年)	小鳥ごっこ		力強く 屈伸させる ぐるぐると まわったり 振ったり					ゆったり 曲げ伸ばし	軽く細かに 走る よちよちと 歩きまわる 軽く早く 走る びよんびよん とんだり 楽しそうに とびまわる
	おてつだい		力強く 押ししたり 引いたり					ゆっくりふる	くるくるまわる 細かく速く 走りまわる 軽く 走る びよんびよん
	動物園				のっそり歩く 重そうに 足踏みする				跳ぶ 跳ぶ こまかく走る 軽く 跳ぶ
	のりものごっこ		力強く 曲げ伸ばし		力強く ゆっくり歩く			ゆっくりゆする ゆっくりあるく 波のように 動かす	軽く 走る くるくると まわる 細かく速く 走る
小学校(中学年・高学年)	花火		まわっては のびあがる 大きく のびしたり 小さく 締めたり 伸びたまま とんだり						びちびち 跳ね上がる びよんびよん 跳ぶ くるくるまわる 小刻みに走る
	ネオンサイン		大きく 背伸びしたり 急に縮んだり						軽く 跳ぶ くるくるとまわる 速く 走る スキップ ポップ ギャロップ
	機械			直線的に足を 跳ね上げる キリキリ回る 力強く 押し引き					速く活発に かけあし 細かく 走る
	四季のスケッチ			激しく 跳び上がる 大きく 回転する 力強く 突き上げる すばやく 伏せたり 仰いだり				静かに 重る 細かく 波打たせる 静かに に伸ばしたり 締めたり 柔らかく 伸縮する 柔らかく 滑らかに ゆるれる バランス	スケーティング ポップ 細かく速く ひらひらさせる 小刻みに 締めたり 爪立って 歩く
	自然の威力			どびながら まわったり 転がったり 高く低く跳ぶ 直線的な フォームで 跳ぶ つきさすように 曲げ伸ばし 走って すべりこむ 急に跳んで伏す				ゆっくりと もちあげる 重そうに歩く まわる くずれるように 跳ぶ もちあげては 伏す 重くゆっくり 上下動	
	昆虫の世界		ゆっくりと 力強く 歩く 荒々しく歩く ぐるぐると まわる 力強く 振る	強く 押ししたり 引いたり 力強く 屈伸 絶望的に 伸縮する				苦しそうに 歩く 苦しそうに 蛇行する 恐ろしそうに 逃げ回る	静かに柔らかかに 揺る 波のように 動かす
中学校・高等学校	海底の幻想			鋭く細かく 屈折する動き すばやく動く				なめらかに たえずうねる 全身的波動 ゆれ動く流れ スロー モーション 遊泳状態 なめらかに ゆれ動く	すりぬげる ように 細かく ぬうように
	自然風物詩						おおいかが さるような 低い動き 急に崩れたり 次第に 薄けたり		軽やかに 直線的に 走りぬげる ひるがえる ように
	花			鋭く 強く まっすぐに のびてゆく 急に 折れ曲がる	しなって もともどる ゆっくりと開く			柔らかく なめらかに ゆったり ぐーっつと おおきく そったり 回旋して 華やかな感じ 静かにゆれる 静かに まげのばし なめらかに 歩く かすかにゆれる	
	私達の詩集				ゆっくり 持続的		さまよう動き		

②作風へのヒント

舞踊発想に基づいた楽曲の構成には、創案者の構成への見通しが反映されている。解説の記述上にみられるはこびは、パートの性格を明確に示しながら、これを連続させることで全体としての筋、作風をもつことにつながる。

いくつかの事例についてみると、例えば、「小鳥ごっこ」³³⁾では、『小鳥が楽しそうに飛びまわって一親鳥は、えさを運んでいっしょうけんめいになって飛び方の練習を一親鳥といっしょに楽しそうにとびまわって』³⁴⁾と、短く描写的な小鳥の様子の変化を続けることで一連のはこびを感じさせ、全体の見通しがつき、「変化する自然」³⁵⁾では、『何かか胎動し、誕生する一新しい生命をもったものの飛翔一事件、挫折、永い眠り一永い眠りの後に次の新しい生命がより一層華麗に生まれる』³⁶⁾と、自然の観察からの写実的表現を、音楽の助けを借りて起伏に富んだ筋道をもってはこぶことで劇的な作風へと導いている。「時計屋さん」³⁷⁾では、『正確な時計一こわれた時計一なおった時計』³⁸⁾の表現を、速度変化を持ち込みながら堅い感じの動きで小グループでおこなうという、動きの変化、連続によって構成的な作風をもつ。

さらに、対象者の発達に伴い、「水の点描」³⁹⁾では、『ぼつぼつ落ちる(水滴)一輪をひろげる(波紋)一渦をまいて飛びちる(水の転変)』⁴⁰⁾と、水の様々な局面の写実的表現を、感情とオーバーラップさせながらはこび、動きの中から自然にわき出す感情の表現を可能にし、「海底の幻想」⁴¹⁾では、『神秘的な美しさをみせる珊瑚樹一光の屈折と深海魚の群一海底漫步(幻想の世界を求めて)』⁴²⁾と、日常とは異なる幻想的な表現を、叙情的にはこぶ。「うたごえ」⁴³⁾では、絶えざる平和への祈りを長い歴史を辿ってきた人類の声をういて『主題となるメロディーが。それは一男声が唱和しました。それは一女声も唱和しました。』⁴⁴⁾とはこび、抽象の世界へも導いている。また、「動きの抽象」⁴⁵⁾では、『透明な世界一歪曲した世界一間合いの世界一不協和の世界』⁴⁶⁾と、抽象の世界から精神性を包含して、動きで感覚的に捉えてゆくはこびを示している。「絵画の印象」⁴⁷⁾は、『鳥獣戯画(風刺)一墨絵(枯淡、簡雅)一ゴッホ(激しさ)一ミレー(折り)一ドガ(華やか、哀愁)』⁴⁸⁾と、絵画の持つイメージを感覚し、それぞれの持つ象徴性を引出し、かけあわせてはこぶという手法を示している。

より、舞踊の特性に着目した創案としては、「風紋」⁴⁹⁾の解説『一連の動きが呼吸するように…、大きなうねりの中に、小さなうねりがいくつも含まれて、全体として大きい流れをつくる舞踊の構造の性質を強調し…』⁵⁰⁾とあるような、創案者の要望による、息つぎの長い切れ目のない音楽

表5) 作風の事例

作風凡例	タイトル
写実的・描写的	「小鳥ごっこ」小(低)
	「変化する自然」小(高)
	「大昔の生活」小(中・高)
構成的	「時計屋さん」小(中)
	「水の点描」中・高
劇的	「海底の幻想」中・高
	「静」
幻想的	「うたごえ」中・高
	「動きの抽象」中・高
叙情的・感情的	「うたごえ」中・高
	「動きの抽象」中・高
抽象的	「動きの抽象」中・高
	「絵画の抽象」中・高
感覚的	「絵画の抽象」中・高

(作風の凡例は、松本のcheck list③を参照、選択した)

への切り込みもなされ、舞踊の側から作曲家を触発するような試みがなされている。

このように、創案を全体の構成＝はこびという観点からみると、作風⁵¹⁾として、どのような創作の結実＝作品化が予想されているかが示されており(表5)、小学生の段階では、音楽の構成にのった、短い描写・写実的表現から筋を持つ劇的はこびへの創案であり、中・高では、写実的なものから、叙情、抽象、感覚的なものへと舞踊運動のもつ特殊性への気づきと共に、作風にも拡がりをもたせた創案であることがわかる。

3. まとめとして

“舞踊を創る”ために創案、作曲された研究対象曲は、531曲(再収録を含む。オリジナル曲266曲)にのぼる。創作ダンスの普及、覚醒が急務であったと考えられる昭和28年から昭和37年までの10年間は、毎年制作・発売され、その後も4、5年ごとにコンスタントに制作されている。これらは、舞踊創出のための音楽として、創案者の意図に則し、個性ある多くの作曲家、制作者の良い連携のもと、対象者の成長の柱にそった創案内容をもつものと認められた。

即ち、創案曲のタイトル分類上にもみる発達別の傾向は、楽曲解説における運動と情調の多方向性や、まとまり感のある作品へとスムーズにもちこむ構成への見通しをもつと認められ、また、解説上にみる部分は相互に対立的、補完的關係をもち、音楽についても、ある部分を取り出しても、そこに内包された気分を持って踊りぬけるように配慮されている。児童・生徒の発達にしたがって短い描写から、関連する段落(形式)へ、筋をもつはこび、ひいては作風への暗示がなされていることが明らかになり、即ち、部分と部分の総和以上のものとしての全体性の原理が生かされているといえよう。

これらは、創案者が、舞踊に生かす音楽の基底をなす性格として次のように述べていることを考

え合わせるとき、本研究で明らかにした創案の特性が、より意味深いものとなる。つまり、『…もっと創造活動の根底にふれた性格として、…音楽の性格をいかして活用すべきだということ…』⁵²⁾が重要であり、楽曲の側からその性格の一つの気分(mood)を持ち、力性一発想をもち、構造をもっていることと分析していること、また『…さらにそれ自体、作者の感情の表現です。これらの着想に接することは、多くの示唆と暗示をもたらす』⁵³⁾と述べていることを考え合わせるとき、舞踊の側からこれらに対応する要因一動きのイメージ、動きの起伏、主題、全体の構成などに児童・生徒が気づき、感受するような、舞踊と音楽の共通の性格を把握したうえでなされた創案であり、解説であると認められた。

さらに、楽曲は、洋楽器のみならず、シンセサイザー、多種の和楽器、人の声など変化に富んだ音構成で作曲、演奏され、加えて、音刺激だけではなく、絵画、彫刻などの写真によって多面的な創造力の開発を意図した、舞踊、音楽と関連諸表現とのコラボレーションへの試みもされていること、舞踊運動の特性を生かす観点から作曲の要望をし、音楽の側をも触発した創案であることも、注目に価すると思われる。

以上のように、舞踊の教育経験と理論、研究の蓄積、これに加えて音楽的素養、感性を持った創案者にしてなされた、大いなる開拓として、これら、研究対象とした舞踊発想と創作のための音楽および解説は、舞踊教育史上に意義のある業績と考えられる。

今後、残された課題としては、音楽の側からのより精緻な分析があげられる。また、運動とイメージを繋ぐアングルとして“表現の手引き—指導のためのヒント”“動きのヒント—はこびのヒント”のように示された具体を通して松本の芸術教育観を明らかにすること、さらに、創案曲を、指導者、学習者がどのように活用し、ダンス創作や作品に生かしたかを検証していくことも、本研究の課題と考えている。

本研究にあたり、日本コロムビア井上英二氏、相場了先生に、貴重な資料をご提供いただき、作曲家越部信義氏には、インタビューに応じていただきました。心より感謝申し上げます。最後に、多くの資料、御教示をいただきました松本千代栄先生御本人にも重ねて感謝申し上げます。

[註および引用文献]

- 1) 松本千代栄「運動と音楽」女子体育, 27巻3号, 昭和60年
- 2) 画証省略, 『舞踊教育』松本千代栄退官記念集, 昭和60年, p.260参照
- 3) 東京女子高等師範学校「第三回体育科音楽試演会曲目」プログラムより, 昭和16年2月15日
- 4) 松本千代栄『舞踊美の探究』大修館, 昭和32年
- 5) 松本千代栄『表現ダンス学習指導全書』大修館, 昭和55年
- 6) 松本千代栄『こどもと教師でひらく表現の世界』大修館, 昭和60年
- 7) このほかに, “Problem Situation and Learning of Problem Solving” IAPESGW International Congress, ベノス アイレス, 1981, “Quality of Movement and Feeling Values” IAPESGW International Congress, ワーウィック, 1985などを行っている。
- 8) インタビューは, 平成11年10月25日, 日本コロムビアにおいて行った。
- 9) JASRAC60年(1999年)の分配データを基に, 年度ごとの分配総額の合計数が多い作曲家10名を顕彰したもの。
- 10) 第48回舞踊学会発表資料, 平成11年12月4日, P.1参照
- 11) 12) 13) レコード「てんとう虫とときのこ」(作曲, 平井康三郎) 解説より, AK396, 日本コロムビア(以下レコードは同様) 昭和28年
- 14) 15) レコード「生活のスケッチ」(作曲, 高田三郎) 解説より, AK398, 昭和28年
- 16) 17) レコード「自然の威力」(作曲, 富田勲) 解説より, BK112, 昭和37年
- 18) 19) レコード「私たちの詩集」(作曲, 宅孝二) 解説より, BK122, 昭和37年
- 20) 21) 22) 39) 40) レコード「水の点描」解説より, AK560, 昭和28年
- 23) レコード「舞踊創作のためのエチュード」(作曲, 越部信義, 草川啓, 三木稔など), EH95~EH99, 昭和52年
- 24) レコード「ダンス学習法」(作曲, 越部信義, 久石譲, 佐藤允彦など), EE3043~EE3050, 昭和56年
- 25) レコード「動物園」(作曲, 平井康三郎) 解説より, AK281, 昭和28年
- 26) この分類Bには, AK627~AK644(昭和34年), BK1~BK11(昭和35年), BK44~49(昭和36年), BK100~BK125(昭和37年), K130~K141(昭和45年)が含まれる。
- 27) この分類には, EH74~EH85(昭和52年)が含まれる。
- 28) 29) この分類には, EE3043~EE3050(昭和56年)が含まれる。
- 30) この分類には, EH93, 94(昭和52年)があり, 「舞と踊り」(作曲, 三木稔)「情調・抽象・所作」

- (作曲, 安達元彦)「愛」(作曲, 富田勲)「静」(作曲, 越部信義)などが含まれる。
- 31) 第48回舞踊学会発表資料, 平成11年12月4日, PP. 11-12参照
 - 32) 7 Motivesの基準は, 松本によって作定された7種のMotivesと, 感情語の連合を実験的に検証したもので“運動とイメージの連合の範疇”と定義され, 7種のMotivesは固有の「感情の型」と連合する「感情の質」を形成する。原著論文; 松本千代栄 Quality of Movement and Feeling Values, Proceeding of IAPESGW, 1985. なお, 7 Motivesの追跡研究として, 佐藤, 松本; Approach to the abilities of Dance Performers, Proceedings of the JYVASKYLA Congress, 1987. や, 島内, 安村, 西; 「運動の質と感情価の追跡研究Ⅰ, Ⅱ」日本女子体育連盟紀要, 1992. などが行われ, 範疇の意味の再認がなされている。
 - 33) 34) レコード「小鳥ごっこ」(作曲, 草川啓)解説より, AK589, 昭和28年。なお, 以下の事例についての詳細は, 第48回舞踊学会発表資料PP. 13-14参照
 - 35) 36) レコード「変化する自然」(作曲, 富田勲)解説より, K138, 昭和46年
 - 37) 38) レコード「時計やさん」(作曲, 越部信義)解説より, K136, 昭和46年
 - 41) 42) レコード「海底の幻想」(作曲, 富田勲)解説より, BK120, 昭和37年
 - 43) 44) レコード「うたごえ」(作曲, 宅孝二)解説より, BK124, 昭和37年
 - 45) 46) レコード「動きの抽象」(作曲, 宅孝二)解説より, AK560, 昭和28年
 - 47) 48) レコード「絵画の印象」(作曲, 富田勲)解説より, AK559, 昭和28年
 - 49) 50) レコード「ダンス学習法Ⅲ, 風紋」(作曲, 佐藤允彦)解説より, EE3048, 昭和56年
 - 51) ここでいう“作風”は, 舞踊用語研究の後に, 松本が作定した3段階のcheck list (①運動—感情の型をみる時・空・力性の18語, ②運動—感情の質を見る形容語42語, ③運動のより全体的な表象・象徴性を見る12語)の, ③を参考にした。なお, 追跡研究として, 松本, 本間; 「舞踊作品研究—事例研究」舞踊学第3号, 1980, 松本; Movement and Symbol—A comparative analysis of CHHAU dance styles, 『Dance and Music in South Asian Drama』The Japan Foundation, Academia Music LTD. 1983. などがある。
 - 52) 53) 松本千代栄「創作指導覚え書(8)」体育科教育, 12巻1号, 昭和39年

[参考文献]

- E. P. トーランス, 佐藤三郎訳『創造性の教育』誠信書房, 昭和41年
 梅本堯夫『音楽心理学』誠信書房, 昭和45年
 ルドルフ・アルンハイム, 関計夫訳『視覚的思考—創造心理学の世界』美術出版社, 昭和46年
 渡辺譲『音楽美の構造』音楽之友社, 昭和52年